

(令和 2 年 7 月試験研究業務月報)

試験研究課題：普通作物及び野菜有害動植物発生予察調査

情 報

特定外来生物クビアカツヤカミキリの発生調査

クビアカツヤカミキリは外来生物法に基づく特定外来生物で、非常に繁殖力が高く、国内各地で生息域を拡大しています。近畿では、大阪府、奈良県、和歌山県で発生が確認されており、本種幼虫がモモやウメ、サクラ等の樹木を加害、果樹園や桜の名所等で枯死・倒木に至るなど甚大な被害を及ぼすことが危惧されます。

当センターでは、府内に侵入していないか、平成 29 年から 6、7 月に発生地に近い府南部の公園等を担当し、9 カ所でモモ、ウメ、サクラを調査していましたが、本年度も被害の発生を認めませんでした。

今後も、関係機関と連携しながら警戒にあたり、クビアカツヤカミキリの早期発見に努めます。



体長：2.5～4cm（触角は含まず）
特徴：成虫は全体的に光沢のある黒色で、胸部が赤い



発生状況調査

クビアカツヤカミキリ

（出典：環境省外来生物対策室（2019）. 『クビアカツヤカミキリは、外来生物法に基づく特定外来生物に指定されました。』）



発生の目印となるフラス

（幼虫が食い荒らした木くずと糞）

（出典：平成 29 年 2 月 28 日付け環自野発第 1702284 号、28 消安第 5193 号「*Aromia bungii*（クビアカツヤカミキリ）に関する注意喚起及び情報提供依頼について」別紙「クビアカツヤカミキリ（*Aromia bungii*）について」）